

ダイズ紫斑病の効率的な薬剤防除体系

【1 成果概要】

アミスター20フロアブルは、ダイズ紫斑病に対して効果が高く、1回散布での防除が可能です。(表1、図1、図2)

その他の薬剤は、1回散布では効果が不十分な場合があるので防除適期である開花20~40日後(若莢期~子実肥大期)の範囲内で他剤との組み合わせによる2回散布が望ましく、1回目散布と2回目散布の散布間隔は10日程度とします。(表1、図1、図2)

表1 チオファネートメチル代替剤のダイズ紫斑病に対する効果と薬剤防除体系

種類名 (商品名)	希釈倍率 ・使用量	紫斑病に 対する効果	薬剤防除体系
アゾキシストロピン水和剤 (アミスター20フロアブル)	2,000~3,000倍		1回散布で十分な効果が期待できる。
イミベンコナゾール水和剤 (マネージDF)	3,000倍		
シメコナゾール水和剤 (サンリット水和剤)	1,000~2,000倍		
銅水和剤 (Zボルドー)	500倍		
イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤 (ベルクート水和剤、ベルクートフロアブル)	1,000倍		
イミベンコナゾール粉剤 (マネージ粉剤DL)	3~4kg/10a		他剤との組み合わせによる2回散布が望ましい。 1回目散布と2回目散布の散布間隔は10日程度とする。
銅粉剤 (Zボルドー粉剤DL)	3kg/10a		
銅粉剤 (撒粉ボルドー粉剤DL)	4kg/10a		
MEP・イミノクタジンアルベシル酸塩粉剤 (スミチオンベルクート粉剤DL)	3kg/10a		
MEP・TPN粉剤 (スミチオンダコニール粉剤DL)	3~4kg/10a		

(「紫斑病に対する効果」凡例 : 優れる、 : 有効、 : 劣る、 x : 無効)

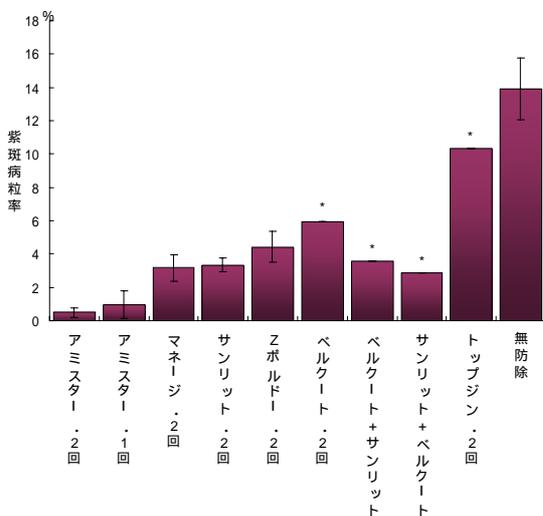


図1 各種薬剤の防除効果

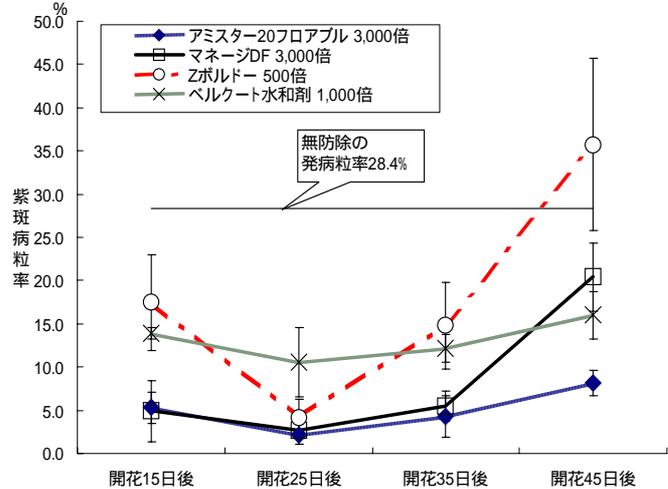


図2 各種薬剤の1回散布における散布時期別の防除効果

【2 留意事項】

- 1 アミスター20フロアブル(ストロビルリン系薬剤)は、耐性菌の発生リスクが高いため、2~3年に1回の使用にとどめてください。
- 2 2回散布体系の場合、耐性菌の発生を防ぐため、1回目に用いる薬剤と2回目に用いる薬剤は同一薬剤や同系薬剤を避けてください。
- 3 マネージ剤、サンリット水和剤は同系(DMI 剤)薬剤なので連用しないでください。

【3 効果】

ダイズ紫斑病の効果的な防除につながります。

【4 適応対象】

農業普及員等の指導者等